

こども虐待に対する保健師の認識

○小笹美子1)、長弘千恵2)、斉藤ひさ子3)、古堅知香子4)、吉永一彦5)、當山裕子1)、宇座美代子1)、古謝安子1)、屋比久加奈子6)
 1)琉球大学医学部保健学科、2)国際医療福祉大学福岡看護学部、3)佐賀大学医学部看護学科、4)沖縄県中央保健所、5)福岡大学医学部、6)那覇市

背景

保健師は妊婦を妊娠届けにより全数把握、出生届けにより出生した子どもの全数を把握できる立場にあること、保健師は新生児訪問や乳児健診、1歳6か月健診、3歳児健診などによって地域で生活する子どもたちに幅広くかかわる機会を持ち、こども虐待を疑う住民から相談をされたり医療機関から退院ケースの連絡を受けることもある。

また、健診等でこどもの虐待が疑われる場合は家庭訪問を行ってこどもの保護者に育児・養育に関する具体的な支援を行うこともできる。これらのことから保健師は乳幼児期のこどもの虐待を発見し、予防していく上で重要な立場にいる。

虐待は発見すること自体が非常に難しいといわれているように、保健師には多視的なアセスメントによってこどもの虐待を予防する活動が求められる。

目的

こどもの虐待を早期に発見し予防へつなげる体制を整備するために、行政機関に働く保健師のこども虐待の認知の実態について明らかにすることを目的とした。

結果

表1.基本的属性

		N=813	n (%)
性別	男	23	(2.8)
	女	781	(96.1)
	未記入	9	(1.1)
平均保健師経験年数		14.31	
年齢	平均年齢	39.68	
	20代	150	(18.5)
	30代	263	(32.3)
	40代	217	(26.7)
	50代以上	156	(19.2)
	未記入	27	(3.3)
勤務先	市町村	611	(75.2)
	保健所	190	(23.4)
	その他	3	(0.4)
	未記入	9	(1.1)
人口規模	1万人以下	38	(4.7)
	1~4万人	199	(24.5)
	5~9万人	138	(17.0)
	10~19万人	95	(11.7)
	20万人以上	161	(19.8)
	未記入	182	(22.4)
現在母子保健業務を担当中		309	(38.0)

表2.こども虐待に対する保健師のかかわり

	人	%
こども虐待に関心がある	795	97.8
地域住民から相談を受けたことがある	491	60.4
医療機関から連絡を受けたことがある	340	41.8
仕事以外でこども虐待事例を見たり聞いたりしたことがある	308	37.9
要保護児童対策地域会議(虐待予防ネットワーク)に参加したことがある	352	43.3
こども虐待に関する研修受講あり	521	64.1

方法

調査期間:平成22年9~10月

調査対象者:沖縄県、福岡県、佐賀県の市町村、保健所等行政機関に勤務する保健師1668名

調査方法:郵送による自記式アンケート調査

(回収数は813名、回収率は48.7%)

調査内容:

- ・基本属性(性、年齢、経験年数、母子保健業務経験の有無)
- ・こども虐待に遭遇した経験の有無と頻度(担当した事例数)
- ・児童虐待予防ネットワーク参加等のこども虐待へのかかわり
- ・こども虐待の研修受講の有無
- ・中嶋らの虐待の認知度

(身体虐待9項目、ネグレクト13項目、性的虐待9項目、心理的虐待13項目、計44項目)

分析方法:虐待の認知度は、問題ない0点、不適切と思う1点、

頻回ならば2点、ときどきならば3点、虐待である4点の5件法

統計解析ソフトSPSSver19を用い、統計学的有意水準は1%未満

用語の定義:本研究では児童虐待の防止等に関する法律の児童虐待の定義を参考に、こども虐待を「未成年者に対する保護義務者の虐待で、身体的・心理的・性的・ネグレクトのすべてを含む」とした。

倫理的配慮:対象者に研究目的、方法、研究参加の自由、回答を拒否する権利があること、回答が困難な質問には回答しなくてもよいことなどを調査表に同封する文書で説明し、対象者が自己意志に基づいて調査票を返送することをもって同意とした。また、本研究は琉球大学疫学倫理審査委員会による承認を受けて調査を実施した。

図1.保健師のこども虐待事例の経験数

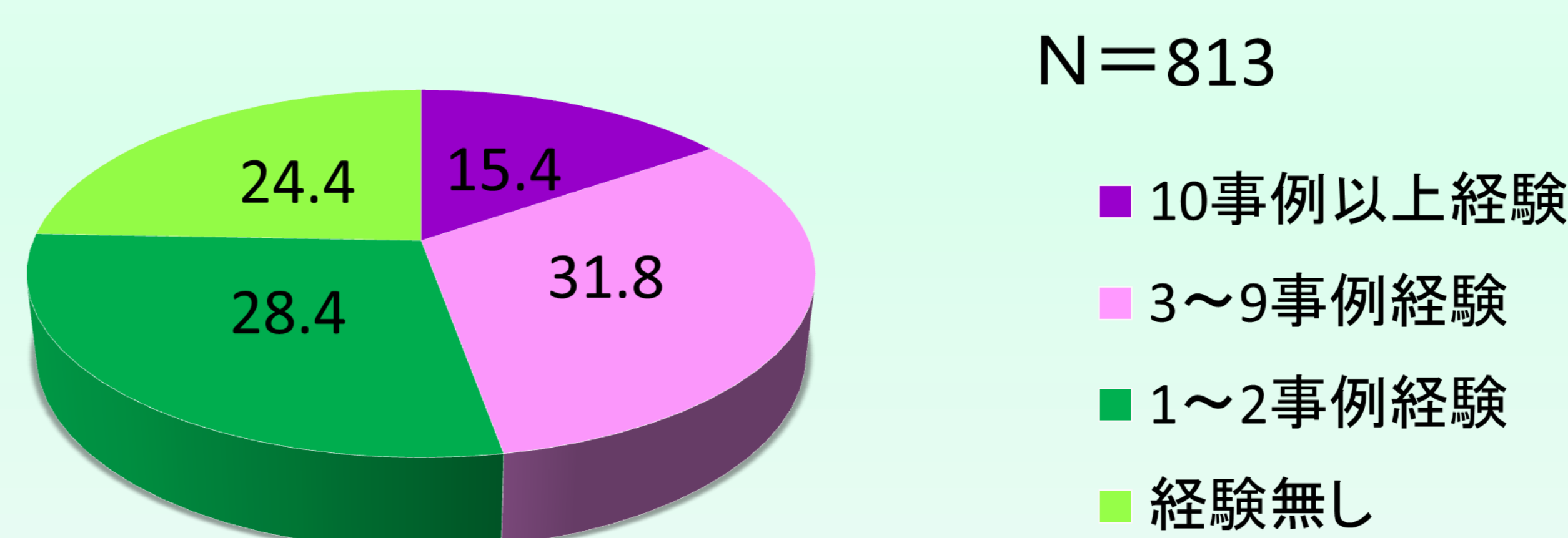
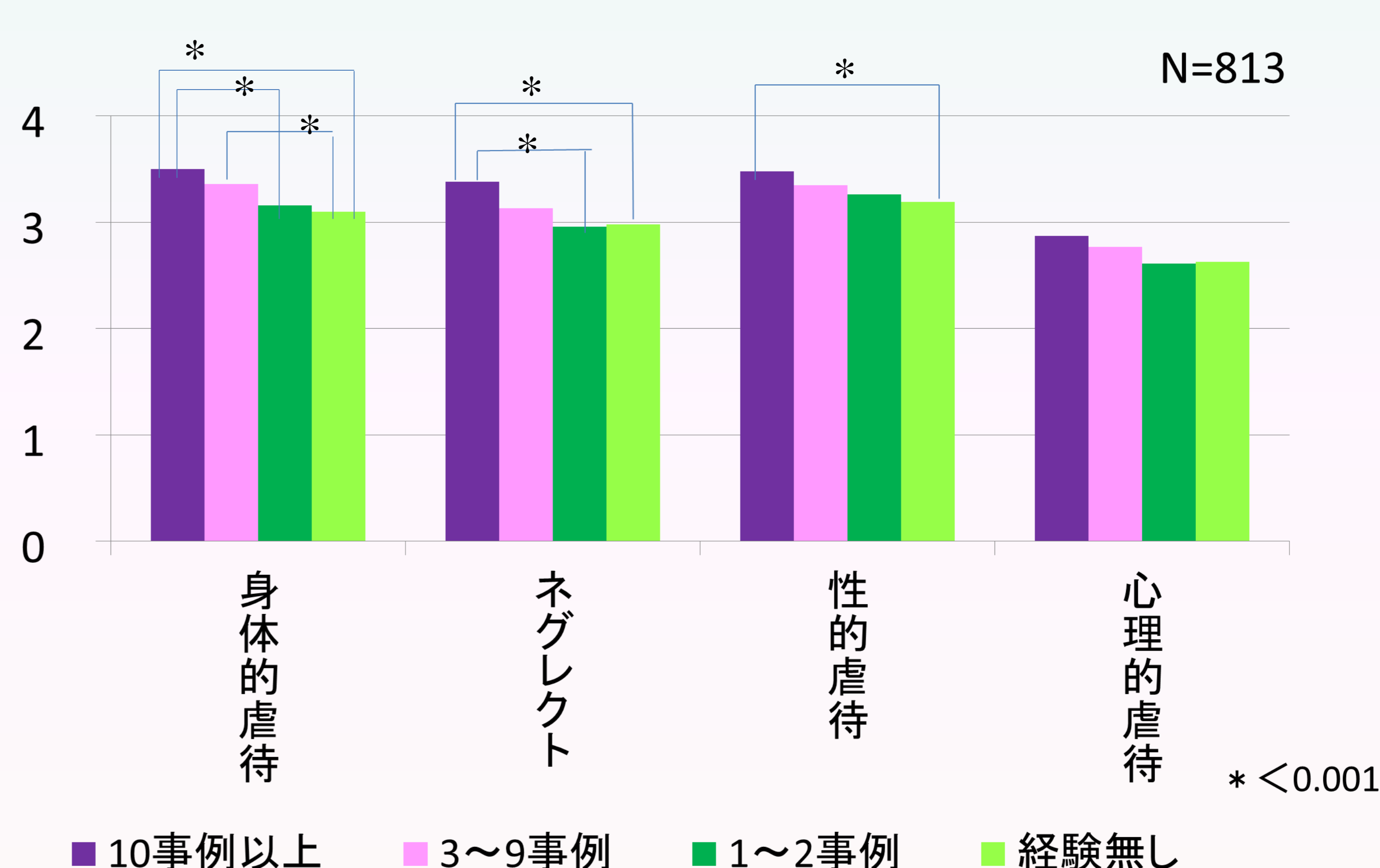


図2.虐待種類別の平均得点—事例経験件数別—



虐待の認知度44項目中平均得点が最も高かった項目は、子どもの身体にタバコの火を押しつけた:3.98点、次いで親の性的満足のために子どもに性器を触らせる:3.95点、子どもに慢性の病気があり生命に危機があるが病院に連れて行かない:3.94点であった。

一方最も低かった項目は、親の帰りが遅いためいつも子どもだけで夕飯を食べている:1.71点、次いで就学前の子どもが嫌がるが受験勉強を強要する:1.87点、親が風呂から裸のまま出て思春期の子どもの前を歩く:1.92点であった。

保健師は生命の危機がある身体的虐待に対する認識以上に性的虐待に対する認識も高かった。性的虐待が子どもの健全な成長発達に重要な影響を及ぼす可能性が高いと認識しているためと考えられる。得点の低い項目は生命の危機に直接かかわらないために認識が低いと考えられる。